



# 薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2020年  
No.6  
事例3

疑義照会

## 投与量及び服用時間



### 事例

#### 【事例の内容】

イーケブラ錠500mg 1錠 1日1回夕食後が処方されていたが、今回からフィコンパ錠4mg 1錠 1日1回夕食後に切り替えになった。フィコンパ錠の添付文書には、1日1回2mgの就寝前経口投与より開始することが記載されている。疑義照会を行ったところ、2mg 1日1回就寝前に変更となった。

#### 【背景・要因】

フィコンパ錠の初回量と服用時間に疑義が生じた。

#### 【薬局が考えた改善策】

フィコンパ錠について、処方医に情報提供を行った。



### その他の情報

フィコンパ錠2mg／錠4mg／細粒1%の添付文書（一部抜粋）

#### 6. 用法及び用量

<部分発作（二次性全般化発作を含む）に用いる場合>

#### 【単剤療法】

通常、成人及び4歳以上の小児にはペランパネルとして1日1回2mgの就寝前経口投与より開始し、その後2週間以上の間隔をあけて2mgずつ漸増する。維持用量は1日1回4～8mgとする。なお、症状により2週間以上の間隔をあけて2mg以下ずつ適宜増減するが、1日最高8mgまでとする。



### 事例のポイント

- フィコンパ錠2mg／錠4mg／細粒1%は、単剤療法や併用療法の開始用量や漸増用量、漸増する間隔などが設定されている薬剤である。抗てんかん薬は、過量投与による重篤な副作用の発現や過少投与による発作の出現など、患者への影響が大きいため、添付文書の用法・用量を遵守することが重要である。
- 抗てんかん薬の調剤を行う際は、投与量を添付文書の用法・用量と照合することはもちろんであるが、投与量の推移についても把握し処方監査を行う必要がある。
- 本事業部が運営している医療事故情報収集等事業には、入院中にイーケブラ錠との併用療法を行う際、フィコンパ錠の投与を1日1回4mgから開始し、投与開始後4日目に1日1回8mgへ増量、投与開始後5日目に退院したが、フィコンパ錠の過量投与により患者に見当識障害や異常行動が出現したため、緊急入院となった事例が報告されている。併用療法の場合は1日1回2mgより開始し、その後1週間以上の間隔をあけて2mgずつ漸増することが添付文書に記載されている。



公益財団法人 日本医療機能評価機構  
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル  
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）  
<http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。